

救急車の適正利用にご協力を！



救急車は限りある医療資源です！

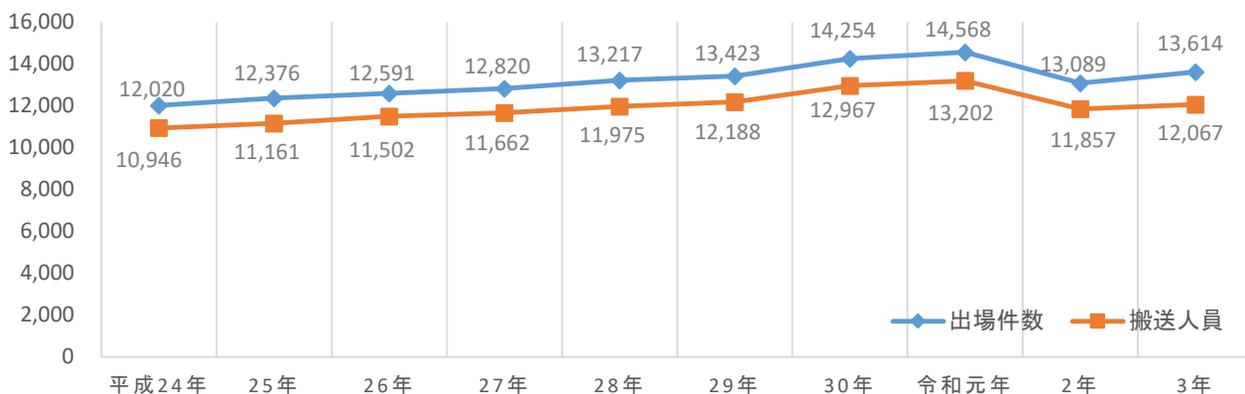
令和2年から3年にかけて、新型コロナウイルス感染症が拡大したことにより、全国で一時的に救急件数が減少しましたが、その後、救急件数は増加傾向にあります。

そのために、本当に救急車が必要な人に救急車がすぐに出場できないことがあります。

通常、119番の救急要請を受けると、現場から一番近い救急車が出場しますが、その近くにあるはずの救急車が出場している場合は、遠方にある別の救急車が出場することになり、現場への到着に時間を要してしまいます。

このように、救急車の出場要請が増えることにより、119番通報を受けてから救急車が現場に到着する時間が遅れ、救える命が救えなくなる場合があります。

過去10年間の出場件数及び搬送人員の推移 (当消防組合管内)



救える命を救うために！

近年、軽い症状でも救急車を利用する人が増え社会問題になっています。

このような状況が続きますと、事故による大ケガの人や、心筋梗塞や脳卒中などで緊急に病院などへ搬送する必要がある人への救急車の到着を遅らせることとなります。

119番通報する前に、救急車が本当に必要か、自家用車やタクシーなど一般の交通機関を利用できないか、もう一度考えてください。ただし、命にかかわる病気やケガで緊急に病院へ行かなければならない場合は、迷わず119番通報してください。

救急車を本当に必要とする人のために、みなさんのご理解とご協力をお願いします。

次のような症状がある場合は迷わずに救急車を呼びましょう。

突然のこんな症状の時にはすぐ119番!!

高齢者

顔

- 顔半分が動きにくい、または、しびれる
- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 急にふらつき、立ってられない

胸や背中

- 突然の胸痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 旅行などの後に痛み出した
- 痛み場所が移動する

手足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

おなか

- 突然の激しい腹痛
- 血を吐く

意識障害

- 意識がない(返事が無い)又はおかしい(もうろうとしている)

けいれん

- けいれんが止まらない

けが・やけど

- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど

吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

飲み込み

- 物をのどにつまらせて

事故

- 交通事故や転倒、転落で強い衝撃を受けた

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合
高齢者は自覚症状が出にくい場合もありますので注意しましょう。

※迷ったら「かかりつけ医」に相談しましょう!

重大な病気やけがの可能性がります!

おとな

顔

- 顔半分が動きにくい、または、しびれる
- 突然の激しい頭痛
- 突然の高熱
- 突えなして立てないくらい急にふらつく

胸や背中

- 突然の胸痛
- 急な息切れ、呼吸困難
- 胸の中央が締め付けられるような、または圧迫されるような痛みが2〜3分続く
- 痛み場所が移動する

手足

- 突然のしびれ
- 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる

おなか

- 突然の激しい腹痛
- 激しい腹痛が持続する
- 血を吐く
- 尿に血が混ざる、または、真っ黒い便が出る

意識障害

- 意識がない(返事が無い) またはおかしい(もうろうとしている)
- ぐったりしている

けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

けが・やけど

- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど

吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

飲み込み

- 物をのどにつまらせて、呼吸が苦しい、意識がない

事故

- 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)
- 水におぼれている
- 高いところから落ちた

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

こんなときにはすぐに119番!!

子ども(15歳以下)

顔

- くちびるの縁が青い
- 顔色が明らかに悪い

胸

- 急に呼吸が止まってしまう
- 呼吸が苦しそう
- 呼吸が早い

手足

- 手足が硬直している

おなか

- 激しい下痢や嘔吐を繰り返す
- 嘔吐物や下痢の量が多すぎる
- 嘔吐物や下痢の色が赤い
- 嘔吐物が止まらぬ
- 嘔吐に血が混ざった

意識障害

- 意識がない(返事が無い) またはおかしい(もうろうとしている)

けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

けが・やけど

- 大量の出血を伴うけが
- 広範囲のやけど

吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

飲み込み

- 物をのどにつまらせて、呼吸が苦しい、意識がない

事故

- 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)
- 水におぼれている
- 高いところから落ちた

生まれつき3か月未満の乳児

- 乳児の様子がおかしい

◎その他、お母さんやお父さんから見て、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

救急車の誤った利用例

- 今日は入院日だから。
- 自家用車が無いから。
- 早く診察してもらえるから。
- タクシーだとお金がかかるから。
- 自分で病院を探すのが面倒だから。

救急車(119番通報)を呼ぶか迷った場合には?

「家族の様子がなんとなくおかしいけど、救急車呼んだ方が良いのかな...」

「具合が悪いけど病院に行った方がいいのかな...」

こんなとき、あなたはどうしますか?

急なケガや病気をしたとき、救急車を呼んだ方がいいか、今すぐに病院に行った方がいいかなど、判断に迷うことがあると思います。

そんなとき、専門家からアドバイスを受けることができる電話相談窓口が救急安心センター事業(＃7119)です。

市民からの救急医療相談を、看護師が医師の支援体制のもと、24時間・365日対応します。



救急安心センターおおさか

#7119 または 06-6582-7119



急な病気
やけが！

短縮ダイヤル #7119 または 06-6582-7119

固定電話、携帯電話からも #7119 より、ご利用できます。

ダイヤル回線やIP電話の方は、06-6582-7119 からご利用いただけます。

おかけ間違いのないようにお気をつけください。

(注) 相談料は無料ですが、通話料はご利用者様の負担になります。

紹介動画

■ 緊急時は迷わず119番へ!!

救急安心センターおおさか

#7119

または 06-6582-7119



※写真はイメージです

24時間 365日対応

子どもの救急電話相談

夜間の子どもの急病時、病院へ行ったほうがよいかどうか、判断に迷ったときにご利用ください。

電話 #8000 または 06-6765-3650 におかけください。

<19時～翌朝8時・年中無休>

画像をクリックすると、別ウィンドウで「小児救急児童相談#8000について」

(大阪府ホームページ) が開きます。



子ども医療電話相談事業(#8000事業)

#8000 または 06-6765-3650

